

学校教育目標	自ら学び考える心豊かでたくましい子どもの育成
--------	------------------------

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全国学力・学習状況調査から、正答率50%を下回ったのが以下の設問である。 国語: 目的に応じて必要な情報を見つける、要約、文中で正しく漢字を使う、修飾と被修飾との関係を捉える 算数: 面積の求め方を記述する	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全国学力・学習状況調査児童質問紙等から、話し合い活動はしていても、自ら話し合いの質を高めようとする意識が低いことが伺える。また探究的な学習活動に取り組んでいると回答した児童は、20%強とかなり低い状況である。英語への学習意欲が県・全国に比べやや低い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・自信をもって自分の思いや考えを伝えることができるように、ペア・グループ活動の目的・場面・状況を明確にしたことで、考えは伝えられるようになってきているが、話し合いの質を高めることにはつながっていない。 ・他者の思いや考えと自分との違いや共通点を明らかにできるよう、ホワイトボード等の活用と板書の構造化を図ったことで、思考の視覚化ができるようになってきている。 ・「振り返り」の活動を充実させてきたことで、自らの成長を実感したり、新たな目標や課題を発見したり、成就感につながっている。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・校内研修(外国語科・外国語活動・道徳科)を主とした互見授業を実施し、授業改善を常時図りながら、児童の表現力を高めることができた。 ・「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の流れを確立し、板書の構造化を図ってきたことで、児童が見通しをもって主体的に授業に参加できるようになっている。 ・互見授業を実施できた学年とできていない学年があった。 ・児童の思考の流れを大切に、主体的・対話的で深い学びの実践を目指す。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・昼の学習タイム(チャレンジタイム)を活用して、基礎基本の定着を進めてきた。 ・小中一貫教育として、学習規律の徹底を図り、年間4回の合同研修で確認し合い取組を進めた。 ・学習に向かう力を支える学級経営を営み、安心できる居場所の大切さを再認識した。 ・地域や保護者と連携して、自力登校・基本的な生活習慣・家庭学習の徹底を図った。	

学力に関する達成指標

単元末テストにおいて、全ての実施教科(20教科)の結果が85点以上

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<授業改善のテーマ・重点> 授業改善による確かな学力の定着・向上 小中一貫教育の推進	<家庭・地域の取組内容> ・小中一貫教育の推進 ・判田「学習規律」の徹底 ・「判田っ子家庭学習の手引き」活用 ・小中合同の学力向上会議や学校運営協議会を通じ、小中学校に共通する課題の把握や対応策の検討を行う。
	<取組内容>・<取組指標>・<検証指標> ・教科担任制の導入、一人一台端末の活用、個に応じた支援等により、低学力層(50点未満)の児童の割合を5%以下にする。 ・子どもが追究したくなるめあてや課題と話し合い活動を効果的に設定した授業の実施により、「進んで発言している」児童の割合を70%以上にする。 ・適用問題の実施等、「まとめ・振り返り」を確実に位置付けた授業の実施により、「授業がよく分かる」と回答する児童の割合を95%以上にする。 ・小中合同研修会を年間4回実施することにより、小中連携に意識した授業に取り組んでいると肯定的に回答する教員の割合を90%以上にする。	
	【授業改善以外の学力向上の取組】	
	①学習規律の徹底 ②継続的な学習活動の工夫(チャレンジタイム・図書館の活用等) ③ICT機器の効果的な活用 ④学習評価の研究・効果的な実施方法の模索 ⑤地域や保護者との連携(自力登校、生活習慣、家庭学習等)	